

2023年度 技術研修会

『脱炭素、カーボンニュートラルについての 技術・取組みについて』

政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。

大変壮大な大きなテーマであり、直ぐに答えが見つかり実現できるような問題でもありませんが、当協会と致しましても、この問題については、今後も継続的に取り組んで行くべき必要が有ると考えております。

本日のような、各社様の取組みの講演が、皆様の意識の変化を生み、日頃の業務等に活かして頂けるよう期待しております。

開催日：令和5年3月17日(金) 13:30~16:30

場 所：TOTOテクニカルセンター大阪
(大阪府中央区久太郎町3-6-8 JRE 御堂筋ダイワビル2F)

参加人数：32名(官公庁：2名、正会員：24名、賛助会員(施工会社)：6名)

内容

時間	見学内容
13:30 (13:35)	(一社)大阪府設備設計事務所協会 加地会長より挨拶
13:35 (14:00)	TOTO 発表
14:00 (14:50)	ダイキン工業 発表
14:50 (15:00)	休憩
15:00 (15:20)	高尾鉄工所 発表
15:20 (16:10)	三菱電機 発表
16:10 (16:15)	大関技術委員長より挨拶
16:15 (16:30)	TOTOショールーム見学



加地会長より挨拶



大関技術委員長より挨拶

TOTO 株式会社 の発表

TOTO グループの商品ライフサイクル視点での CO 排出量削減の取組みのご紹介
 「製造、販売」時と「商品使用」時の CO 排出量削減に注力し、「きれい快適」と「環境」を両立する TOTOらしい商品 = サステナブルプロダクツの普及を目指します。
 ・ 製造、販売時（省エネ改善・大型設備の更新、再生可能エネルギーの導入）
 ・ 商品使用時（サステナブルプロダクツの普及、環境商品の進化）

ダイキン工業 株式会社 の発表（設備営業部 山田鉄二）

- ・ 小水力発電（再生可能エネルギー）システムの開発・普及
- ・ インバータ機やヒートポンプ給湯機の普及・高効率商品の開発
 ZEB 対応向け商品（パッケージエアコン、全熱交換器の開発）
- ・ 冷媒影響の低減
 低 GWP 熱源機器の開発、再生冷媒利用、冷媒漏えい検知システム
- ・ JICA や大学との連携による各国の省エネ性評価の業界規格導入、実証試験
- ・ バリューチェーン全体で温室効果ガス実質ゼロへのグローバルの取組み
- ・ 工場 IoT プラットフォームを活用した電力消費量の可視化による効率運用
- ・ クラウドを使った見える化を使った空調機の運用改善による CO2 削減

株式会社 高尾鉄工所 の発表（営業本部 本部長 松山 豊）

化石燃料炊きの重油・ガスボイラーからの新エネルギーへの燃料転換
 電気ボイラー・廃油ボイラー

三菱電機 株式会社 の発表（環境推進部 主管技師長 山口 博）

排熱回収型水熱源ヒートポンプ活用による、直接排出ゼロ化に向けた取組み事例
 ・ 塗装現場と機械加工現場という異なる用途、かつ離れた現場に対し、熱輸送に優れた水熱源ヒートポンプを活用することで大幅な省エネと直接排出ゼロ化に貢献できた事例をご紹介します。

めっきラインのカーボンニュートラル実現を目指した取組みのご紹介

- ・従来は、化石燃料をボイラで燃やし発生させた蒸気により、めっき液を加熱していたが、電気駆動式ヒートポンプにより、空気を熱源として再生可能エネルギーを回収利用することで加熱方式を電化し、さらに太陽光発電システムや蓄電池と連携させることにより、カーボンニュートラルの実現を図ります。



研修会 風景



TOTO ショールーム見学

『ご講演して頂きました、賛助会員各社ご担当者様、
並びに、会場を提供頂いたTOTO様 有難うございました。』



TOTOテクニカルショールーム内にて 集合写真